

市民公益活動と出会おう！ みんなの SUITA DAY 2022



➡メイン会場となった千里ニュータウンプラザ 2階エントランスホールでは、2日間で9団体が出展しました。

1月15日(土)・16日(日)の2日間にわたって「みんなのSUITA DAY」を開催しました。「みんなのSUITA DAY」は、2019年9月にプロジェクトを発足し、市民参加型で企画を検討してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた企画は中止となりました。

その後、あらためて市民の皆さんに参加を呼びかけ「コロナ禍の中でもできることを探そう」という思いの中、感染防止を最重点に準備を進め、当日を迎えました。(詳しい経緯は中面の特集記事をご覧ください)

両日とも、約150人の来場者が集まり、出展団体・ボランティアの皆さまのご協力により、市民公益活動との出会いの場を生み出すことができました。



①千里市民センター大ホールでは、椅子ヨガとパラリンピックで話題になったボッチャの体験会を行いました。



②2日目には、影絵と吹田くわいの紙芝居を開催し、来場しなくても楽しめるよう、ラコルタのFacebookページでライブ配信にも取り組みました。



感染対策のため、当初予定していた全ての団体に出展いただくことは叶いませんでした。しかし、会場での出展が難しかった団体には、動画で参加してもらうことで、活動を紹介いただきました。詳しくは、特設サイトをご覧ください。<https://suitaday.hp.peraichi.com/2022>

どなたでもご参加ください！ ラコルタの講座・イベント

3月6日(日)

オープンデータを活用 ノーコード アプリセミナー

簡単なアプリ作りを体験。
表計算ソフトが使える方対象。

●とき：13:00～17:00
●定員：先着15名

3月8日(火)

NPO・ 市民公益活動団体向け 会計講座

会計上、気を付ける点を
解説します。

●とき：19:00～21:00
●定員：先着20名

3月29日(火)

吹田市市民公益活動の 支援補助金 説明会&相談会

説明終了後、個別の相談会
も実施します。

●とき：19:00～20:00
●定員：先着20名

お申込み・
お問い合わせは
ラコルタまで

TEL: 06-6155-3167
FAX: 06-6833-9851
Eメール:
info@suita-koueki.org
※費用が明示されていない
イベントは無料。
※申込期限の記載がなければ
前日まで。



オミクロン株の収束はいつになるのか。近年相次ぐ大震災、風水害などで生活様式が変化している。今日の状況からコミュニケーション不足とかで評判はもうひとつなのだが、「オンライン」が鍵になるという。ウィルスとの共存に、さらに最低3年かかるという説が有力な中で、改めて自分らしい生活様式が求められている。(森戸)

＜発行責任者＞ 柳瀬真佐子
＜編集スタッフ＞
茨木由美・入江陽子・春貴勇力・
森戸秀次・山本泰秀

ラコルタ

吹田市立
市民公益活動センター

VOL.38

出会う→集う→育てる→実る

Newsletter 2022年3月1日号

○表紙：「Be Social」第23回・小林碧子さん

○中面：特集 / イベントを通して
市民自治の種をまく

○うら：ラコルタの取り組み、イベント

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。

市民公益活動センター（愛称：ラコルタ）は市民の力で

吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。



私たちが暮らす
地域や社会の事を
他人事ではなく自分事にする。
そういった“ソーシャルな生き方”の
魅力をお伝えします。

育児と活動から見えた
私らしい働き方



こばやし あおこ
第23回 小林 碧子さん

ママの働き方応援隊(ママハタ)
ママディレクター&トレーナー

3児の母。結婚後、営業職を退職し、吹田市に転入。子連れで働けるママハタのプログラム「赤ちゃん先生」を通して、学校や高齢者施設で、赤ちゃんに触れ合う機会を提供している。

<http://www.mamahata.net>

■仕事への焦り

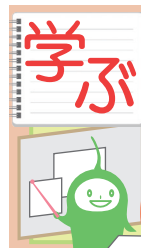
一人目の妊娠を機に退職し、無我夢中で子育てに専念してしました。二人目を出産した後くらいに「いつまで働かずにいるのか」という焦りが出始めたのです。そんな中、子連れで何かできることは無いかと探していたところ、雑誌の特集記事で、ママの働き方応援隊(ママハタ)の事を知りました。その後、「赤ちゃん先生」の養成講座などを受け、活動することで収入も得られるようになりました。

■女性の役割

活動を通して、家庭以外に役割を持てたことを嬉しく思いました。しかし、仕事・育児・家事と女性なら全部して当たり前という考えが私の中にあり、理想通りに出来ないことで悩んだ時期もありました。ただ、無理のない範囲で仕事量を調整し合える団体だったので、自分にとってちょうど良いバランスを探ることが出来ました。

■多様な働き方

ママハタで活動するお母さんの中には、起業や副業をしている人も多く、自分の中でも働き方に対する多様性が広がったように思います。家族との時間も大切にしながら、働くことを通して、人や社会と繋がっていくような活動を今後も続けていきたいです。



ボランティア・NPO 初歩講座

興味がある方、活動はしているがもっと理解を深めたい方など。
「出前講座」も承ります。お気軽に！
●毎月開催！●定員 10名

やってみたい！の聲に
お応えします！
見つけよう！
自分にあった
ボランティア

単発！短時間！ ぱちボラ体験

働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方など週末や余暇の新しい過ごし方として。初心者の方でも気軽に参加できます！
(例)お弁当作り・喫茶・竹林整備など

イベントを通して 市民自治の種をまく

ラコルタが「みんなのSUITA DAY」でめざしたこと

吹田市のまちづくりを進めていくうえでの基本的な方針となる第4次総合計画では、めざすまちの姿として「市民自治によるまちづくり」が掲げられています。言い換えると「市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち」ということになりますが、ライフスタイルの多様化や、地域コミュニティの希薄化などにより、自治の担い手不足は深刻化しています。

また、「地域課題の解決に向けて行動しましょう」と言われても、それは「行政」や他の「誰か」がやってくれるもの、あるいはそ

もそも「地域課題」が何なのかわからない、と感じられる方も少なくないと思います。

これは、まちづくりに参加する機会が不足していることなど、様々な要因が考えられますが、ラコルタでは市民公益活動の促進を通して「市民自治によるまちづくり」をめざしています。

本号では、今年1月に開催した「みんなのSUITA DAY」（以下、SUITA DAY）というイベントを通して、市民の参加や自治について考えます。

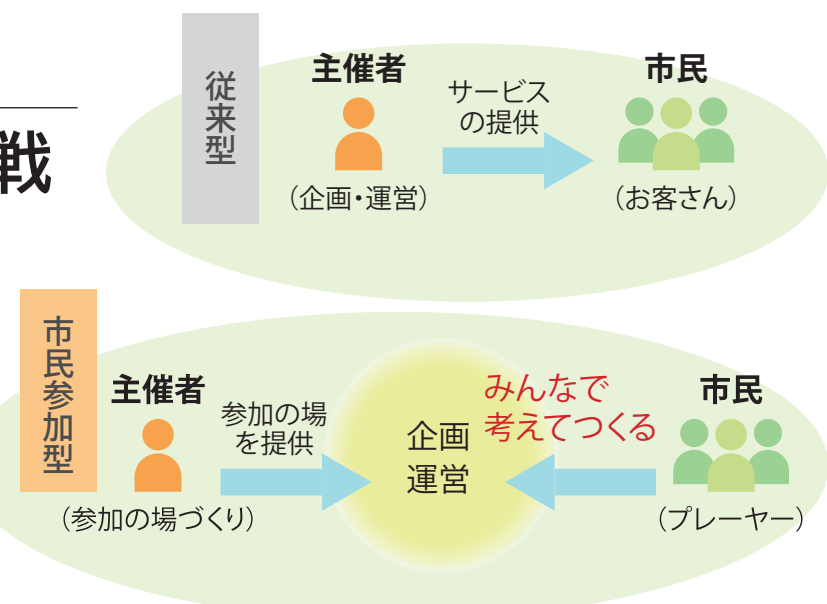
市民参加型の 新しいイベントへの挑戦

SUITA DAYは、公共空間を使って、まちの人たちが会える市民参加型のイベントです。

ラコルタの主催事業ですが、名称・開催日・会場以外の具体的な内容については、ワークショップを重ねて、**市民とともに作りあげるプロセス**を重要視してきました。参加者の関係づくりや企画づくりなど、イベント開催に向けた一連の活動において、市民自らがプレーヤー（主役）になれるよう、ラコルタは、場・仕組み・機会の提供だけに努めてきたのです。

時に、どのようなイベントをやるのかが見えないことで、不安な気持ちを参加者が抱かれることや、コロナ禍の影響で計画を立てづらいこともありましたが、対話を積み重ねることや、自分たちのやりたい企画を実現させることで、SUITA DAYへの愛着が芽生えてきたと思います。

「みんなのSUITA DAY」の名称は、「みんなの」というところに大きな意味を置いています。こういった参加のプロセスを経ることで、SUITA DAYが「ラコルタのイベント」ではなく、「**自分たち(みんな)のイベント**」になることをめざしてきたのです。



今回は、SUITA DAYというイベントの過程において、市民参加の場づくりに取り組んできましたが、まちづくりの場面においても同じことがいえると思います。

行政や特定の人たちだけで取り組むのではなく、参加の機会を多様に設けることで、まちや人との関係性が育まれ、自分を取り巻くコミュニティやつながりにも目を向けることができます。また、良いコミュニティやつながりによって、様々な主体との連携や協力を経験し、課題解決に取り組む力を養うことになります。

このプロセスに参加することにより、まちへの愛着(シビックプライド)の醸成や「市民自治のまちづくり」の具現化をめざしたいと考えています。

「みんなのSUITA DAY」開催までの経緯

2019年	9月 7日	みんなのSUITA DAYを考えるDAY	
	10月 5日	みんなの実行委員会 ①	ふるさと自慢、eスポーツ体験、大声コンテストなどの企画が生まれました。
	11月 2日	みんなの実行委員会 ②	
	12月 7日	みんなの実行委員会 ③	
2020年	2月15日	みんなの実行委員会 ④	
	3月28日	みんなのSUITA DAY(コロナ禍により9月に延期後、再延期)	
	11月14日	みんなのSUITA DAYをもう一度考え直してみるDAY	
2021年	5月 1日	みんなのSUITA DAYをどうするでい	
	5月15日	誰でも会議 ①	オンライン会議を取り入れながら9月の開催に向けて仕切り直し。新たに段ボールで恐竜をつくる企画が生まれました。
	6月19日	誰でも会議 ②	
	7月17日	誰でも会議 ③	
	8月21日	誰でも会議 ④	
	9月	緊急事態宣言により再延期	
	9月25日	恐竜づくりワークショップ ①	
	10月 2日	恐竜づくりワークショップ ②	
	10月17日	恐竜づくりワークショップ ③	
	11月20日	誰でも会議 ⑤	
	12月16日	恐竜づくりワークショップ ④	
2022年	1月15・16日	みんなのSUITA DAY2022 ① ②	



コミュニティワーカー 西川 正さんに聞きました！

『みんなでやる』 って何だろう…

感染拡大の初期の頃、「**不要不急の外出は控えよう**」という言葉が飛び交いました。この「不要不急」は、人によって判断が分かれます。例えば芸術やスポーツ。あるいはボランティア活動。一時的

には「不急」かもしれませんが、長い目で見れば、人間らしく生きていく上でいずれも欠かせないものであるはずです。

私が長年関わっているNPO法人が運営する学童保育所の保護者会では、コロナ前は野外キャンプを毎年夏に実施していました。これも言わば「不要不急」の活動のひとつです。忙しくて子どもを預けているのに、なぜやらなければい

けないのという意見もある。そのたびに、経験者がその「価値」を語り、「リスク」に関しては心配事を出し合う丁寧な対話を重ねてきました。

しかし、コロナ禍は「リスク」を読むことが難しく、対話の成立が困難になりました。保護者会の活動も停止。現在は解散かどうかの議論に移っています。解散すると、保護者会の活動の「価値」＝

自分たちで考え実行するという「自治」のおもしろさについて、自らの経験として語れなくなります。とても残念です。

人々の間で対話が難しくなっているのは、このコロナ前から感じてきたことです。保護者会の活動でも「決まったことを指示してほしい」という声が年々大きくなっていました。社会全体がサービス産業化し、サービスの提供者と消費

者という二分化が進んでいることが、背景にあると考えています。そこで、新たなコミュニティの作り方について模索をはじめています。

コロナ禍はまだ現在進行形です。この状況に対して主体的に関わって生きること、「みんなでやる」ことの意味を、改めて問う機会ではないでしょうか。

西川 正さん

NPO法人ハンズオン埼玉常務理事、コミュニティワーカー。著書に『あそびの生まれる場所～「お客様」時代の公共マネジメント』

